

テーマ

ふれあいで伝わるふるさと日原

事業実施地区（中学校区名）	津和野町立日原中学校
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	日原中央公民館 日原公民館 左鏡公民館 滝元枕瀬公民館 池河公民館 池河公民館商人溪村分館 青原公民館

テーマの背景

ふるさと教育は学校が中心であり、地域は学校の要請に応えるものであった。日原中学校区には複数の公民館があり、学校と地域が連携してふるさと教育に取り組むには皆が共通した意識意欲が必要である。しかしながら、そのための手段に拱いていたところ、「公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業」が舞い込んできた。そこで、この事業を活用して、公民館連携で、中学校と地域でふるさと教育が始められるのではないかと思い、ふるさと教育に取り組む意識意欲を高めたかった。

実際の取組

①学校で学んだことを実践できる場を設定

事業名：日原盆踊り大会（日原公民館エリア）2018/8/14

<取組の概要>

子どもたちが地域行事に計画段階から参画して、たくさんの地域住民と出会いふれあうことで体験と達成感を味わう。その手段としての日原盆踊り大会に取り組んだ。

計画段階から公民館と子どもたちで話し合い、何がしたいか、何をしたら皆で楽しめるかを話し合い、盆踊り行事に出店やジャンケン大会を行うことを計画した。

① 役割分担の協議・・・出店、ジャンケン大会の司会進行

② 出店の協議・・・小学生；だがしや、中学生；かき氷・綿菓子・ポップコーン

（だがしやは昨年から小学生が担当していたが、中学生の出店は今回からで自分たちで何を出店するかを決めた。）

③ 事前準備と試作を行った。

<成果と課題>

子どもたちの何がしたいのかを引き出し、地域に子どもたちの顔を見せることができた。盆踊り大会に中学生が参加することは今までまれだった。子どもたちも達成感を感じるとともに地域の人たちに喜んでもらっていることを実感した。そして、子どもたちにとってのふるさと教育と考えて計画したことが、地域を元気にしたと実感できたことが収穫だった。

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：日原地域めぐり（公民館連携、日原、左鐙、滝元枕瀬、須川、池河、青原）

<取組の概要> ～左鐙地域から池河地域へ高津川を下るように地域めぐり～

子どもたちがふるさとの歴史を学ぶと同時に、教職員向けにも学習する機会を設ける。教職員は地元出身者が少なく、地域のことには無知である。ふるさと教育は教職員を含めての実施が必要と考える。そして、そこに地域住民も集い一緒に学ぶ。

- ① 教職員・地域住民対象（2018/8/2）
- ② 中学生(1年生)・地域住民対象（2018/9/18）



<成果と課題>

日本遺産で描かれている今も残る原風景を目の当たりにして、参加者全員が感慨深く溶け込むようにして学ぶことができた。今も変わらない風景が日原のいいところだ。名所旧跡では、「日原にこんなところがあったんだね。」と話しながら、先生・生徒・地域住民が感心しながら歩く姿が印象的だった。今後の課題としては、広く浅く知ることからどこかに集中して探究していくのか、小学校から中学校へ系統立てて知っていくのかビジョンが必要と考える。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

子どもたちと対等に話し合い計画を実施すること。地域にはその用意があること。そのためには学校の先生方にも協力を得ること。地域から学校に気軽に入って行き、それを迎える学校の用意があること。そして、それを取り持つコーディネーターの存在が欠かせないことだと感じる。

今後の展望

子どもの姿が地域に見えなくなっている。地域の行事に子どもたちの居場所が次第になくなっていくのだろうか。今回、公民館ふるさと教育推進事業に関わることで、子どもの姿を見るだけで地域は元気になっていくのだということがわかった。今後の活動に地域づくりの面からも考えていきたい。